

Market Flash

発表日: 2019年12月4日(水)

おかえり 50

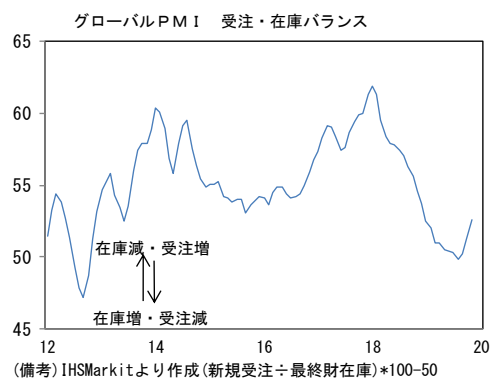
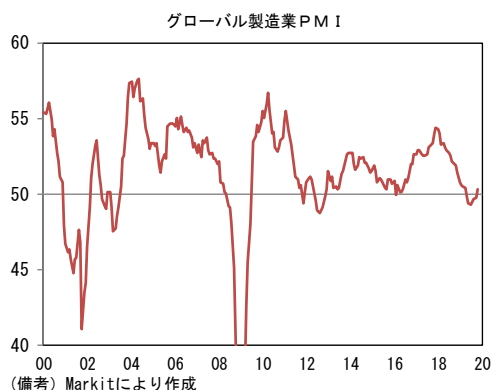
～グローバル製造業PMIは7ヶ月ぶりに50回復～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-4523)

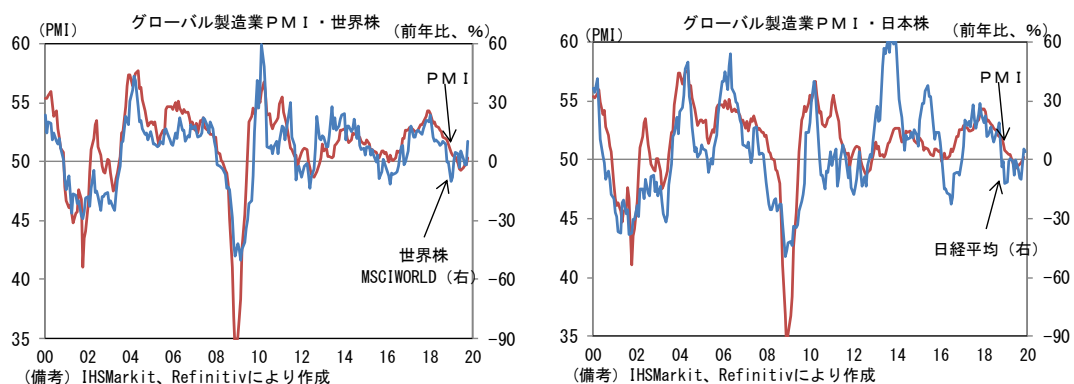
- ・日経平均は底堅い企業業績を背景に、先行き12ヶ月は24000近傍で推移しよう。
- ・USD/JPYは日米金融政策が様子見となる下、先行き12ヶ月は105程度で推移しよう。
- ・日銀は現在のYCCを長期にわたって維持するだろう。
- ・FEDは予防的利下げを実施後、更なる利下げを検討するだろう。

< #グローバル製造業PMI #新規受注・在庫 #日本株 >

- ・11月のグローバル製造業PMIは50.3へと10月から0.5pt改善。7月の49.4をボトムに4ヶ月連続の改善で水準は7ヶ月ぶりに節目の50を回復した。サブ項目は生産(50.3→50.9)、新規受注(50.0→50.4)、雇用(49.2→50.0)が揃って50に復帰。サプライヤー納期(50.1※筆者が符合調整)は不変、購買品在庫(48.3→48.8)は押し上げに寄与であった。ヘッドライン構成項目外では新規輸出受注(48.9)が不変、受注残(48.9→49.2)が小幅上昇。国別では米国、中国、ユーロ圏、日本が何れも改善。IT関連財の動向を読む上で重要な韓国は改善、台湾は横ばいであった。世界経済が回復に向かっていることを印象付ける結果であった。
- ・生産活動の先行指標として注目される新規受注・在庫バランスは11月単月の数値が小幅低下も、3ヶ月平均の数値は上向き基調にある。2019年入り後、アジアを中心にIT関連財の在庫調整が進展する下、ここへ来て新規受注が上向きつつあることが背景。米中通商交渉の進展期待に支えられた企業支出の増加に加え、5G関連の新規需要が貢献している模様。また、当然のことながら世界的な低失業率を背景に個人消費が底堅さを保っていることも効いている。特に米国では自動車販売が高水準を維持する下、モーゲージ金利低下を受けて住宅市場が力強く回復している。このように新規受注・在庫バランスが改善基調にある場合、メーカーが予期せぬ減産に直面する可能性は低下する。



- ・グローバル製造業PMIは世界株式（MSCIWORLD）と密接に連動する。目下、米国を中心とする株価上昇に違和感を指摘する向きも少なくないが、現在の株価変動率は過去の傾向からみて平均的な姿である。これは年初来高値を更新した日経平均にも共通して言える。



【株式市場・アジアオセアニア経済指標】

- ・日本株は米国株安を受けて安寄り後、もみ合い（10：30）。日経平均は23100円を割れている。

【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

- ・前日の米国株は下落。米中通商交渉の早期合意期待が後退。WT I 原油は56.10（+0.14 ドル ）
- ・前日のG10通貨はUSDの弱さが目立った。USD/JPYはリスクオフの中で水準を切り下げ108半ばへと低下。EUR/USDは1.10後半で推移。RBAが追加利下げを示唆しなかったことを受けAUDが上昇。
- ・前日の米10年金利は1.716%（▲10.3bp）で引け。米国株下落を横目にリスクオフの米債買いが優勢。欧州債市場（10年）はドイツ（▲0.348%、▲7.3bp）、フランス、イタリア、スペインが何れも金利低下。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。